

■文化会館(マドカホール)

				0歳 ～就 学前	小学 生以 上	妊産 婦	障害 者・高 齢者	その 他	自己評価		
<b>ア 子どもたちや親子を中心とした音楽や演劇、ダンスなどさまざまな形での体験機会や鑑賞機会の提供に努めます。</b>										<b>2事業</b>	
アートマルシェの開催	8月・1月		359 名 (2回/年)	○	○				○	市民が文化芸術にふれるきっかけづくりを目的としたワークショップ。年々定着してきており、リピーターも多い。	A
「竹×アートとのあい」の開催 (現代アート展示/演劇・音楽公演/ワークショップ)	2/25(土)、 3/11(土)～ 20(月・祝)		5,474 名		○				○	現代アートの展示会を開催。竹をテーマとした常設展示を2作品の他、演劇や音楽等のコンサートやワークショップなど10日間開催。現代アートの魅力を広く市民に提供できた事業として、大きな効果があった。作品づくりから関わってもらい、アートの魅力に気付かれた。	A
<b>イ 育成団体である「岸和田市少年少女合唱団」「岸和田市音楽団」「マドカドラマスクール」の活動を支援し、輪を広げる事業展開に努めます。</b>										<b>2事業</b>	
育成団体「岸和田市少年少女合唱団」「岸和田市音楽団」「マドカドラマスクール」指導者謝礼の支出	通年	指導者数	7 名		○					3つの育成団体の活動を支援し、団体の質の維持及び向上を図るため、必要な支援を継続していく。	A
「岸和田市少年少女合唱団」「岸和田市音楽団」定期演奏会の開催	11/26(日)、 1/8(日)	入場者数	750 名		○				○	育成団体の活動の発表の場を支援。団体と連携しながら今後も支援していく。	A
<b>ウ 公募展である市展や地域で活動する市民や団体が参加するマドカ合唱祭の充実・発展に努めます。</b>										<b>2事業</b>	
第67回岸和田市市展の開催	5月～7月	入場者数	2,992 名(4期7部門の合計)		○				○	美術に関する分野(洋画・染織・陶芸・書・日本画・写真・俳画)の公募展及び受賞作品のみを集めた作品展を開催。見ごたえのある作品展となった。	A

■文化会館(マドカホール)			0歳 ～就 学前	小学 生以 上	妊産 婦	障害 者・高 齢者	その 他	自己評価	
第29回マドカ合唱祭の開催	7/29(日) 入場者数	500 名		○			○	合唱グループ、学校等による合唱曲の発表、祭典として昭和63年に合唱講座から発展した事業。合唱グループや学校等の合唱の発表の場として定着している。	A
<b>エ 市民文化活動の場としての文化祭について、実行委員会の活動を支援し、事業の充実・発展に努めます。</b>								<b>3事業</b>	
第68回岸和田市文化祭の開催	9月～11月 入場者数	21,931 名					○	昭和24年から続いている文化祭は、市民の文化活動の成果を発表する場として定着しており、参加団体も多く、一定の成果をあげている。	A
文化の日祝典 1部式典	11/3(木・祝)	350 名					○	文化、教育、スポーツ等の功労に対する表彰式典。	A
文化の日祝典 2部「芸術の秋～煌びやかな饗宴～」	11/3(木・祝)	252 名					○	事業協会に委託。文化の日祝典にふさわしく華やかで、若手演奏家による演奏会であった。ホールキャパからはもう少し入場者数を伸ばしたかった。	A
<b>オ 障害者・児のための作品展の開催を支援します。</b>								<b>0事業</b>	
<b>カ 市内小中学校の音楽会や鑑賞事業、市内中学校におけるクラブ活動発表会などの子どもたちの文化事業の実施を支援します。</b>								<b>2事業</b>	
芸術鑑賞事業の実施(1校:演劇鑑賞)	8/3(水)			○				利用校が1団体と少なく、引き続き対象校に対し、事業の周知をしていく。	B
チャレンジ支援事業(6回)	通年			○				コンクールに挑戦する団体(主に中学校のクラブ)に対し、本番前に舞台に立つ機会を提供することで、日頃の成果を発揮してもらう取組。活用する団体としない団体があるため、周知に努めたい。	A

■ 文化会館(マドカホール)				0歳 ～就 学前	小学 生以 上	妊産 婦	障害 者・高 齢者	その 他	自己評価	
キ 庁内のさまざまな施策と連携し、文化活動を通じた子どもたちの健全育成や地域の魅力づくりに努めます。									0事業	
ク 市民や文化団体等の主体的な芸術文化活動の支援、育成に努め									2事業	
自泉会館指定管理者(岸和田文化事業協会)への 事業委託(5件)	通年							○	指定管理者の企画・実施している各事業費を支援。企画を尊重しつつ、連携しながら支援していく。	A
共催事業の実施(3件)	通年							○	マドカホール・自泉会館の会場使用料に対する支援。	A
ケ ワークショップや講座の開催など文化活動の普及に努めます。									2事業	
アートマルシェの開催(子どものためのアートマルシェ)		参加者	172名	○	○			○	市民が文化芸術にふれるきっかけづくりを目的としたワークショップ。年々定着してきており、リピーターも多い。	A
アートマルシェの開催(おとなと子どものアートな体験)		参加者	187名	○	○			○	広報に力を入れて、新規参加者の増やしていきたい。	
コ 3館合同事業による市民参加や体験の機会を創出します。									1事業	
オペレッタ「桃と赤鬼」		入場者数	353名		○			○	浪切ホール・自泉会館と合同で市民参加型のオペレッタに取り組んだ。	A
サ 国際交流を通じた青少年の異文化交流や異文化理解に努めます。									1事業	
姉妹都市米国カリフォルニア州サウスサンフランシスコ市 青少年受入事業		受入人数	20名		○				青少年海外交流事業として、姉妹都市である米国サウスサンフランシスコ市からの青少年を受入れた。訪問団へ、日本や本市の文化、魅力に触れる機会を提供し、異文化交流を推進している。	A